

明久と姉妹の恋物語

汐海

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは明久と木下姉妹の恋物語を描いたものです

ふと思った時に秀吉が本当に女の子だったら？それと優子とともに明久のことを好きだったら？と考えて書こうと思いました

よければ最後までお付き合いください

目次

設定	1	第五話	明久倒れる	47
プロローグ&Aクラス自己紹介		第六話	皆とのパーティー	52
9		第七話	Eクラスとの試召戦争	
第一章 試召戦争		60		
第一話 試召戦争 V S Fクラス	16	67	第八話 明久と木下姉妹の休日	
第二話 戦争はじめ 一回戦・二回戦	21			
第三話 三回戦・四回戦	26	83	第九話 明久危機一発!?	
35			第十話 再度振り分け試験! 雄二と 康太Aクラス入りなるか!?	95
第四話 戦争終結 代表対決				

設定

設定

Aクラス

吉井明久

成績 Aクラス 主席

総合点数 15000

ある日幼馴染の姉妹から告白をされて付き合い始める

好き 優子と優奈（秀吉）

嫌い FFF団 姫路島田

木下 優子

成績 Aクラス 次席

総合点数 13000

ある日助けてもらったのをきっかけに明久に恋をし

妹の優奈とともに明久に告白をし付き合い合うようになる

好き 明久 優奈

嫌い F F F団 姫路島田

木下 優奈(秀吉)

成績 Aクラス 上位並み

総合点数 10000

優子と同じ

明久を守るために男装をして守ろうとしている

好き 明久 優子

嫌い F F F団 姫路島田

霧島 翔子

成績 Aクラス 上位並み

総合点数 8500

小学校から雄二のことが好きなのだが自分ではなかなか言えなくて困っているときに明久の手助けで雄二と付き合い始める

明久のことを恩人だと思っている

好き 雄二

嫌い F F F 団 姫路島田

工藤 愛子

成績 Aクラス 上位並み

総合点数 6000

高2の時の試召戦争の時に康太のことを好きになる

明久とは中学からの幼馴染

後々康太と付き合う

好き 康太

嫌い F F F 団 姫路島田

久保 利光

成績 Aクラス 上位並み

総合点数 7500

ホモではない

ホモ以外は原作と同じ（久保だけ思いつかなかった汗）

後々???と明久の手助けを経て付き合う

好き???

嫌い F F F団 姫路島田

Fクラス

坂本 雄二

成績 Fクラス 代表

本当はAクラス 上位並み

総合点数 8000

成績はAクラス並みなのだが学力だけがすべてじゃないと思っておりそれを証明したいために点数を調整してFクラスに入る

明久のことは恩人と思っており何かあったら助けようと思っっている
翔子と付き合っている

好き 翔子

嫌い F F F団 姫路島田

土屋 康太

成績 Fクラス

本当はAクラス上位並み

総合点数 5000

明久とは高校1年のころに知り合いそこから仲

高2の時にAクラスとの試召戦争の時に愛子のことが好きになる

明久の手助けを経て付き合う

好き 愛子

嫌い FFF団 姫路島田

島田 美波

成績 Fクラス

総合点数 ???

明久にいつも理不尽な暴力をふるう

自称誰よりも明久のことが好き

好き 明久(自称)

嫌い 優子 優奈

姫路 瑞希

成績 Fクラス

本当はAクラス並み

総合点数 6000

明久のことが好きだったのだが島田とつるむようになってから暴力をすることに抵抗がなくなる

???と付き合う予定

好き 明久（自称）

嫌い 優子 優奈

FFF団

嫉妬に狂う男どもの集まり

平均で点数は500弱ぐらい

他クラス

清水 美春

成績 Dクラス

総合点数 ???

島田の事をお姉さまと慕っていたが明久に対する暴力を見てその考えを改めた

今は島田のことが嫌い

後々???)と付き合う予定

好き???)

嫌い 島田 FFF団

根本 恭二

成績 Bクラス 代表

総合点数???)

明久とは中学のころからの幼馴染

同じく幼馴染の友香のことが好きで明久の助言を経て見事付き合うことができた

好き 友香

嫌い FFF団 姫路島田

小山 友香

成績 Cクラス 代表

総合点数
???

根本と同じ

明久とは小学校からの幼馴染

好き 恭二

嫌い F F F団 姫路島田

平賀 源二

成績 Dクラス 代表

総合点数
???

岩下 律子

成績 Bクラス 上位

総合点数
???

菊入 真由美

成績 Bクラス

総合点数
???

プロローグ & Aクラス自己紹介

これは僕たちがまだ、高校一年の時の話

優子「ねえ明くん二年はどこクラスに行くの？」

明久「もちろんAクラスに行くに決まってるよ！二人もAクラスに行くでしょ？」

優子「当たり前じゃない！明くんと同じクラスになりたいもん。ねえ？優奈」

優奈「うん！明と同じクラスに行きたいもん！」

最初に出てきたのは僕の彼女で優子、後から出てきたのは優子の妹の優奈、彼女も僕の彼女だよ。今は僕を守るためと言って男装して秀吉と名乗っているけど、本当は女の子だ。

因みに優奈の事情を知っているのは一部のみだ。

明久「それなら、Aクラスに行くために勉強しようか？」

優子「ええ」

優奈「うん！」

それから、振り分け試験当日

先生「それではテストはじめ！」

うん。行ける！これならAクラスは余裕で行ける！

優子と優奈は大丈夫かな

明久「う〜ん終わった〜疲れたな〜二人はどうだった試験？」

優子「私は問題ないわ。優・・・じゃなかった秀吉はどうだったの？」

優奈「わしも問題はないのじゃ」

何で今優子が秀吉と言ったのかそれは、優奈が学校では秀吉と名乗って男装しているからだ。

あまり周りには知られたくないしね

明久「それなら三人一緒にAクラスに行けるといいね」

優子「そうね」

優奈「そうじゃな」

それから月日が立ち

高校二年始業式の日そして振り分け試験結果発表の日

ピンポーン

明久「はい。誰かな？こんな朝早くから」

ガチャ

優子「明くんおはよ〜」

優奈「明おはよ〜」

明久「おはよ二人とも。どうしたの？朝早くから」

優子「うん。明くんと一緒に行きたくてね」

優奈「明と一緒にいきたいの！」

明久「分かったよ少し待っててね。すぐに準備してくるから」

〜〜〜五分後

明久「おまたせ〜それじゃ行こうか」

〜

明久「う〜んどこのクラスになるかな〜」

優子「明くんはAクラス確定でしょ」

優奈「そうね明はAクラスだよね〜」

明久「そうだといいな〜二人もAクラスでしょ？」

???'「三人ともおはよう」

といつの間にか学校に着いていた

今挨拶をしてきたのは

明久「おはようございます西村先生」

優子「おはようございます」

優奈「おはようございます」

西村「ああ三人ともおはよう。そして、これが振り分け試験の結果だ」

明久「しかし、なんでこんなやり方をしてるんですか？」

西村「これがわが校のやり方なのだ」

明久「そういうもんですかね」

と言いつつ僕は封筒を開けた

吉井 明久 Aクラス 代表

優子「あ、明くん代表なんだ」

明久「そうみたいだね。二人は？」

木下 優子 Aクラス 次席

木下 秀吉 Aクラス

明久「二人もAクラスだね！これでみんな一緒のクラスだね！良かった」

西村「三人とも一年を楽ししいものにしろよ！」

明久優子優奈「はい！」

→ Aクラス前

明久「・・・これが教室？僕はホテルに入ったのかな？」

優子「明くん現実逃避しないの」

明久「うくんこれはさすがにすごいな」

優奈「確かにこれはすごいんじゃない」

優奈は学校なので男装して秀吉となり爺口調になる

明久「まあ入ろうか」

ガラ

???「・・・三人ともおはよう」

???「おはよう三人」

明久「あ、翔子さん愛子さんおはよ」

今、挨拶をしてきたのが霧島翔子と工藤愛子

僕の友達の雄二と康太の彼女でもある

優子「おはよ翔子愛子」

優奈「おはようなのじゃ霧島工藤よ」

明久「二人もやっぱりAクラスなんだね！といゆことは雄二と康太もAクラスに来るかな？」

翔子「・・・雄二はFクラス雄二から聞いた・・・Fクラスでやりたいことがあるらしい」

愛子「康太君もFクラスだよ坂本君に着いて行っていったみたい」

明久「やりたいこと？まあ大方最低と呼ばれるFクラスでAクラスに勝つことかな？」

???「そこHRですので席に着いてください」

高橋先生がそう言いながら入ってきた。

高橋「それではまず自己紹介からです。私はAクラス担任の高橋です。これから一年よろしくお願ひします。まずは、代表と次席から挨拶をしてもらいます。ふいたりは前に来てください」

僕たちか

明久「はい。僕が代表の吉井明久です。これから一年間よろしくお願ひします。」

優子「私は次席の木下優子です。これからよろしくお願ひします。」

高橋「ありがとうございます。次は皆さんです。」

優奈「ワシは木下秀吉じや。次席の木下優子はワシの姉上じや。間際らしくなるかもしれんでワシのことは秀吉と呼んでくれ」

翔子「・・・霧島翔子。よろしく」

愛子「はーい僕は工藤愛子。スリーサイズは・・・」

優子「愛子それはやめなさい」

愛子「はーいよろしくね」

利光 「僕は久保利光一年間よろしく」

高橋 「ではこれHRを終わります。」

??? 「アキイイイイ！」

明久 「ん？誰だ!？」

第一章 試召戦争

第一話 試召戦争 V S Fクラス

??? 「アキイイイイ」

明久 「誰だ!？」

ガタン!

そんな音ともにドアが勢いよく開いた

そして入って来たのは

島田 「アキイなんてあんたAクラスなのよ!?! カンニングしたんでしょ! オシオキよ
!」

姫路 「明久君カンニングはいけないこと何ですよ? オシオキです!」

明久 「ちよつと待つてよ二人ともって痛い痛い

やめてよ腕そつちに曲がらないよ」

島田 「うるさい! あんたがカンニングなんかするからでしょ」

姫路 「そうですよ! 明久君がカンニングするのが行けないんですよ?」

意識が途切れ始めたその時・・・

秀吉「いい加減にするのじゃ！」

優子「いい加減にしなさい！」

バシッ

優子「大丈夫？明くん？」

明久「う、うん・・・だいじょう・・・ぶ」

バタン

僕はそこで意識が途切れた

優子「明くん？明くん！」

どうして明くんがこんな目に合わないといけないのよ！」

優子は泣きながら怒っていた

それも当然だ

最愛の人が傷つけられたのだから

秀吉「明・・・島田姫路

何でこんなことをするのじゃ！」

島田「木下には関係ないじゃない！それよりアキを渡しなさい！オシオキの途中なん

だから」

姫路「美波ちゃんの言うとおりでオシオキの邪魔をしないでください」

雄二「やめろ！島田姫路お前ら何他クラスに迷惑をかけてやがんだ？」

康太「・・・お前らこれはどういうことだ？」

愛子「これ以上は僕も許さないよ？僕の友達を傷付けて君たちは楽しいの？」

翔子「・・・島田姫路あなたたちが決めたことが決して許されることがないそれを覚えていて」

利光「これ以上はぼくも黙ってはいられないかな明久君が何をしたというんだい」

島田「なによりこちらが悪いみたいない方して！全部アキが悪いのよ！カンニングなんかしてAクラスに行って！それにAクラスの女子とも仲がいいしアキはうちらとどけ仲が良ければいいのよ！」

姫路「そうですね！明久くんがカンニングなんかしてAクラスなんかに行かなければよかったです！」

優子「何を言ってるのかしら？あなたたちは明くんがカンニングなんかしてるわけないでしょ！明くんは昔から頭いいのよ？それなのに明くんを侮辱して何が楽しいのよ！そんなに暴力をして楽しいの？」

優奈「そうよ！明は昔から頭は誰よりも良かったの？それにあなたたちは明に良くしてもらったのにそれをあだで返して楽しいの？」

島田「何であんたたちにそんなこと言われなといけないのよ！それになにより明くん

や明つて木下たちはアキのなんなのよ」

優子「私たちは明くんの彼女よ！」

優奈「そうよ！なんか文句ある？」

島田「はあ!?!彼女嘘言いなさいよ！だいたい木下弟は男じゃない彼女なんて嘘でしょ！」

優奈「嘘じゃないわよ？ただ私が男装をして明の近くにいて守れるようにしていただけなの」

島田「ふんまあいいわ。私たちFクラスはAクラスに宣戦布告するわ」

雄二「おい島田勝手なことをするな」

島田「うるさい坂本は黙ってなさい！いいわね覚悟しなさいよ。いこ瑞希」

姫路「はい美波ちゃん」

雄二「はああの野郎、ほんとうちのものがすまない」

優子「別に坂本君が謝らなくていいわよ」

雄二「すまない。所で試召戦争のことなんだが代表は誰なんだ？」

優子「代表は明くんよ」

雄二「そうか明久かじゃまた後でだな」

明久「いいよ雄二今話そうか」

雄二「明久!?!起きてたのか?大丈夫なのか?」

優子「明くん・・・」

優奈「明・・・」

明久「2人ともごめんね心配かけて雄二大丈夫だよ」

雄二「分かった。それで試召戦争の件なんだがV S Fでやらないか?」

明久「いいよ。それに勝った方は負けた方に何でも一つ言えるを付けてくれるなら」

雄二「分かった。それでいいそれじゃ時間は明日の午後からだそれじゃあな」

明久「うん明日」

あの二人明久を傷付けたことを後悔させてやる。

第二話 戦争はじめ 一回戦・二回戦

次の日の午前

明久「え〜昨日Fクラスに宣戦布告をされました。それで今回出てもらう人を発表してもいいですか」

Aクラス全員「いいよ!」

明久「それじゃ優奈誰が来るかわからないけどお願い」

優奈「分かったわ明」

明久「うん次に優子島田さんが来たらお願い」

優子「あの女ね昨日からイライラしてからちようどいいわ」

明久「よろしくね次は愛子さん康太が来たらお願い」

愛子「へえ〜あのムツツリーニ君が相手か任せてよ!」

明久「ありがと次翔子さんFクラス最強姫路さんをお願い」

翔子「分かった姫路には怒りしかないそれをぶつける」

明久「最後に僕は雄二とやる!それじゃ後一時間後に補充試験をするからね」

さて雄二やろうか!

く
く
く
く

そのころFクラスでも代表決めをしていた

雄二「さて今日の午後Aクラスと戦うんだがメンバーを決めたいと思う一回戦は（捨て駒で）須川行つてくれ」

須川「任せろ」

まあ捨て駒だから期待などしてない

雄二「よし次だ二回戦は島田行け（こいつも捨て駒だな）」

島田「分かったわアキ覚悟しなさいよ」

はぁーこいつは明久はAクラス

しかも代表なんだからお前が勝てるわけないだろそんなこともわからないのか

雄二「次は康太頼む」

康太「・・・承知」

雄二「よし次姫路頼む」

姫路「分かりました！明久く覚悟してくださいね？」

はぁお前もかよ

雄二「最後は俺が行く」

覚悟しろよ？明久

雄二「康太少し付き合ってくれないか？」

康太「・・・了解」

雄二「失礼する」

学園長「ノックしないかクソジャリども」

雄二「俺たちは今日Aクラスと試獣戦争をしかけるそこでいい試合をしたら再度の振り分け試験を要求する」

学園長「ほうずいぶんと面白いことを言ってくるさね分かった実いい試合をしたら認めてやろう」

雄二「要件はこれだけだ失礼する」

くくくく

時間が立ち

現在AクラスVS Fクラスが始まろうとしている

明久「きたね雄二負けないからね」

雄二「望むところだ明久！」

高橋先生「では一回戦の代表は前へ」

雄二「よし（捨て駒で）須川行け」

須川「分かった」

向こうは須川君は

こつちは

明久「優奈お願い」

優奈「分かったよ

行ってくるね明」

一瞬で決まった

高橋先生「二回戦の代表前へ」

雄二「島田行け」

島田「分かったわアキ出てきなさい！叩き潰してあげるわ！」

うわ！僕そんなことされることしてないよ

それにそんなこと言ったから優子と優奈が怒ってるし

後でおさめないと

明久「優子お願いね」

優子「任せてよ明くん行ってくるね」

島田「何で木下が出てくるのよアキを出しなさいよ！」

優子「明くんが出るわけじゃないじゃない次席のアタシすら勝てないのに」

島田「そんなわけないじゃない！アキはカンニングで入ってるんだから」

優子「明くんはカンニングなんかしてないって言ったわよね？何も知らないくせに勝手に決めつけてるんじゃないわよ」

島田「くう言わせておけば高橋先生数学でお願いします！」

高橋先生「承認します」

優子「試獣召喚！」

島田「試獣召喚！」

Aクラス

木下 優子 1000

V S

Fクラス

島田 美波 169

島田「何よその点数!?!そんなの勝てるわけじゃないじゃない！」

優子「昔から明くんと勉強してた実力よ因みに明くんはこれよりも上だからそれじゃさようなら帰国子女さん」

島田「そんなわけじゃないじゃない！アキはカンニングしてるんだから」

第三話 三回戦・四回戦

高橋先生「では三回戦の代表は前へ
くそーこれで今うちは二敗かよ

後がないな

ここは負けねえ!

雄二「康太頼む! 勝ってきてくれ!」

康太「・・・了解」

やっぱり向こうは康太が来たか

ならこっちは

明久「愛子さんよろしく」

愛子「任せてよアッキー!」

康太「・・・工藤愛子お前が相手か」

愛子「そうだよ康太君! 負けないよ!」

康太「・・・望むところだ」

高橋先生「それでは科目を選んでください」

康太愛子「保健体育！」

高橋先生「それでは三回戦はじめ！」

愛子「試獣召喚！」

康太「・・・試獣召喚」

Aクラス

工藤 愛子 1000

V S

Fクラス

土屋 康太 1500

愛子「あちやー点数負けちゃったかー

それでも勝負は負けなよ！」

康太「・・・俺も負けられない！

加速！」

愛子「つつ!!？」

工藤 愛子 800

明久

いきなり2000点削るか

さすがだね康太

愛子「さすがだね康太君

けど僕だって！電撃！」

康太「・・・!?負けない加速」

シュバア

ビリッ

工藤 愛子 400

土屋 康太 1000

明久

お？お互いに結構減ったな

次あたりで決まるかな？

愛子「ん〜これはきついな

けど負けれない！電撃！」

康太「・・・これで決める！加速」

工藤 愛子 DEAD

土屋 康太 10

愛子「僕が負けた・・・」

康太「・・・落ち込むな工藤愛子

ほかの科目だったら俺が負けていた

だから自分を責めるな」

愛子「康太君／／／

ねえ僕の事は愛子って呼んでよ」

あ、愛子さん

康太に惚れたな？

康太「・・・分かった／／／愛子／／／」

おや？康太も惚れたな？

これは面白いことになりそうだ

明久「ねえ優子優奈

あの二人どう思う？」

優子「そうね

いい感じじゃないかしら？」

優奈「うん

おそろいね」

明久「そうだね」

よし康太のやつなんとか勝つてくれたな

それにしてもあの二人お互いに惹かれてるな

明久たちも気がついてるみたいだ

と、康太が帰って来たか

雄二「お疲れ康太

してどうだった？工藤は」

康太「・・・いいライバルに出会えた」

雄二「・・・そうか

それはよかったな」

康太「・・・ああ」

高橋先生「では四回戦の代表は前へ」

さてこっちは当然・・・

雄二「姫路頼む」

姫路「はい！明久君覚悟してくださいね？」

はあおまえもかよ

つたくめんどくせー

明久「翔子さんお願いね」

翔子「分かった行ってくる」

姫路「!?何で明久くんじゃなくて霧島さんが来るんですか？

明久君を出してください！」

翔子「明久は主席だから主席は最後

それに明久ではあなたは相手にならない」

姫路「明久君が主席なんてありえません！きつとカンニングしたんです！」

翔子「そんなことはない

それにカンニングした証拠でもあるの？」

姫路「？もういいです

高橋先生総合でお願いします！」

高橋先生「承認します」

翔子「試獣召喚」

姫路「試獣召喚！」

Aクラス

霧島 翔子 8500

V S

Fクラス

姫路 瑞希 5000

姫路「なんですかその点数は!？」

翔子「明久たちに勉強を教えてもらった結果

貴女は明久のことをバカにしすぎ

私はそれを許さない」

姫路「な!?!明久君がそんな点数とれるわけありません!

何かの間違いです!」

翔子「もういい

貴方と話すことはない」

姫路 瑞希 4500

姫路「・・・!?!負けません!

腕輪 熱線!」

翔子「そんなもの喰らわない」

シユツ

翔子さんは姫路さんの熱線を回避した

そのままカウンターを食らわせた

姫路 瑞希 3000

姫路「くう負けません！」

霧島 翔子 8000

翔子「私も負けない

そしてこれで決める

腕輪 氷結」

ヒユウ

姫路の召喚獣を氷漬けにしてそのままとどめを刺した

姫路 瑞希 DEAD

翔子「あなたでは私たちに勝てない」

姫路「そんなああ」

明久「翔子さんお疲れ様」

翔子「明久ありがと

最後は明久貴方だから頑張つて」

明久「うん！頑張るよ！」

ほんとはもう終わつてるけど雄二とは戦いたいしね！」

明久が言ったとおりAクラス現在5戦3勝している

普通ならここで終わりなのだが明久と雄二ともに対戦を希望している

なので代表同士の対決が決まったのだ

第四話 戦争終結 代表対決

高橋先生「それでは最後の対決を始めます
代表は前へ」

よし僕と雄二だね！

優子「頑張ってね明くん♪」

優奈「明頑張ってね♪」

明久「うん♪行ってくるね」

よし絶対勝つぞ！

雄二「来たな明久

ぜってえまけねえ！」

明久「僕だって負けないよ雄二！

Aクラス代表として君を倒す！」

雄二「けっ！ほざいてろ！」

高橋先生「では科目を決めてください」

明久「総合点数で！」

高橋先生「承認します

それでは始め！」

明久「試獣召喚《サモン》！」

雄二「絶対に勝つ！試獣召喚《サモン》！」

Aクラス

吉井 明久 15000

V S

Fクラス

坂本 雄二 8000

Fクラスモブ「な、なんだ!?

吉井の点数は？」

Fクラスモブ「カンニングか？」

Fクラスモブ「それだ！」

島田「アキーーーアンタなんでカンニングなんかしてるのよ!

オシオキよ！」

姫路「明久君カンニングはいけないことなんですよ？」

おとなしくカンニングを認めてオシオキされてください！」

また、島田さんたちか

てか、僕がカンニングなんかした証拠でもあるの？

それに、監督者は鉄人と高橋先生なんだからカンニングなんかできるわけないじゃない

か

そんなのも分からないのかな？

優子「明くんはカンニングなんかしてないわよ！」

変なこと言わないでちょうだい！」

優奈「そうよ！明はカンニングなんかしてないよ！」

高橋先生「そうですね。吉井君はカンニングはしてないですよ

なにより監督者は私と西村先生ですからカンニングをする暇なんてありませんよ！」

その通りだ

出来るわけがない

明久「・・・そろそろはじめようか雄二」

雄二「そうだな」

お互いの召喚獣がぶつかり合う！

ともに点数が減る

吉井 明久 14000

坂本 雄二 6000

くそ！

いきなり20000点も減らされたぞ！

これはまずいな

優子

さすが明くん

いきなり20000点も減らすなんて

明久「まだ行くよ！腕輪発動《劍舞》！」

無数の劍が雄二の召喚獣に向かって飛んでいく！

雄二「くそ！」

坂本 雄二 3000

劍がもろに当たりかなり減らされている！

雄二「くつ！このままじゃばい！

けどこのまま終わらねえ！

腕輪発動《倍化》！」

明久「!?やばい」

しかし雄二の攻撃がかすってしまった

吉井 明久 12000

かすっただけで2000点も減らされるなんて

雄二の腕輪厄介だね

あれが直撃したら危ないね

明久「さすがだね雄二けどこれで終わらせる！」

腕輪発動《劍舞》！」

雄二「俺だって負けられねえんだあああ！」

腕輪発動《倍化》！」

互いの腕輪の効果が当たりそして・・・

吉井 明久 7000

坂本 雄二 DEAD

高橋先生「そこまで！勝者Aクラス！

これで試召戦争は終わります」

雄二「くそーーーーー」

負けたかあ」

明久「いい勝負だったね雄二！

またやろうよ！」

雄二「そうだな

それとおいババア！いるんだろ！」

学園長「まったく口のきき方は気をつけな

クソジャリ！」

雄二「俺の出した条件はあんた的にはどうなってるんだ？」

学園長「そうさね

いいもんみしてもらったからね

特別にFクラスにもう一度振り分けテストを受ける権利を与えよう」

雄二「ほんとか！

よし！康太絶対Aクラスに行くぞ！」

康太「・・・当たり前だ」

明久「・・・？雄二どういうことなの？」

雄二「Aクラスといい試合したらもう一度振り分け試験をさせてもらえるように頼み

に行ってたんだ」

明久「なるほどね！確かに雄二たちにはAクラスに来てほしいね
翔子さんも喜ぶだろうしね」

雄二「な!?!しよ、翔子は関係ないだろうが／／」

おやあ？雄二が顔を赤くしているぞ？

これはあたりかな？

明久「まあまあ

雄二たちが来れることを祈ってるよ！」

雄二「おう！かならずAクラスに行つて見せるぜ！

さてとそれより戦後対談をしようか」

明久「そうだね

それじゃ試合に出た人以外は解散だよ！」

島田「ちよつとなによそれ！そんなの聞いてないわよ！」

姫路「そうですよ！私たち何も聞いてませんよ！」

雄二「お前らがいないときに決まったからな」

明久「それじゃ一回戦から行こうか」

優奈「私ね

そうね二度と明に近づかないで」

須川「・・・分かった」

優奈ありがとう

明久「それじゃ二回戦の人」

優子「アタシね」

決まってるわ今後明くんには近づかないで！」

島田「なんであんななんかにそんなこと決められないといけないのよ！」

優子「そんなの決まってるわ」

アンタが明くんに暴力をするからでしょ！」

島田「あれは暴力じゃないわよ！」

オシオキよ！」

優子「それが暴力だって言ってるのよ」

そんなのも分からないのかしら？ 帰国子女さん」

島田「ムキイイイ！言わせておけば！・・・」

明久「次三回戦に出た人」

島田「な!?! 何で進めるのよアキ！」

明久「それ聞いてたら話が進まないでしょ？」

だからだよ」

島田「アキのくせに生意気よ！」

もうほんとにうるさいなあー

康太「・・・工藤俺と友達になつてくれ」

あ、康太も話進めた

なあそうだよ

てかそれが頼みか

好きなくせに思いきりいけよ！

愛子「うん僕でよければいいよ／＼／＼」

愛子さん顔赤くしてるよ

これは、完璧惹かれてるね

明久「次行こうか」

翔子「次は私

私も優子と同じ

姫路あなたはもう明久に近づかないで」

姫路「嫌ですよ！何でそれを聞かないといけないんですか！」

はあ姫路さんもか

明久「・・・最後は僕だね

雄二「今度の振り分け試験必ずAクラスにきてね」

雄二「おう！」

明久「それじゃ解散！」

島田「待ちなさいよアキ！」

これで終わりと思ってるの！オシオキよ！」

姫路「これで終わりだなんて思わないでください！オシオキです！」

明久「・・・なんでいつも僕はオシオキをされないといけないのさ？」

島田「それはあんたがウチラ以外の女子と話すからよ！」

姫路「そうです！明久君は私たち以外と話しちゃいけないんです！」

明久「・・・意味が分からないよ」

どうして君たち以外の女子と話してはダメなんだい？」

島田「まだ分からないの！?もういいわオシオキよ！」

姫路「分からない人にはオシオキです！」

優子「あなたたちいい加減にしなさいよ！」

いつまで明くんを苦しめれば気が済むのよ」

優奈「そうよ！明はいつも明るく許してるけど実際は心がボロボロなのよ

あなた達がしてくることが明を苦しめてるのよ！」

島田「そんなの知らないわよ

アキが悪いんだから」

姫路「そうですね！ 私たちは悪くありません！ 全部明久君が悪いんです！」

雄二「明久が悪い？ お前らしい加減にしろよ！」

康太「・・・明久がいつ悪いことをした」

翔子「明久は何もしてない」

愛子「そうだね〜アツキーはいつもみんなにやさしいしね」

鉄人「お前らいつまで残ってるんだ！」

早く帰らないか！」

雄二「鉄人いいところに！」

島田たちが明久に暴力をしようとしている！」

鉄人「なに！ それは本当か！」

島田「違います！ ウチらはアキにオシオキをしようとしてるだけです」

姫路「そうですね！ 私たちは悪くありません！」

鉄人「吉井がいつそんなことをしたんだ

貴様らは今からきつい補修をしてやる！」

島田「そんなあ

覚えてなさいよアキイイ！」

姫路「必ずオシオキしますからね？明久くん」

雄二「よし行つたな

大丈夫か明久？」

明久「・・・」

雄二「明久？」

明久「・・・皆・・・」

ドサツ

明久が倒れた

優子「明くん？どうしたの？」

優奈「明？どうしたのよ？」

雄二「急いで保健室に連れて行くぞ！」

明久どうしたんだ!?

第五話 明久倒れる

〈保健室〉

優子「何で明くんは倒れたのかしら？」

優奈「分からない」

確かになぜ明久はいきなり倒れたのか

明久「うう・・・やめてよ島田さん関節はそんなに曲がらないよ

姫路さん釘バツトで殴らないでよ・・・FFF団もやめてよ・・・」

雄二「・・・おい明久が倒れたのってまさか・・・？」

優子「そのまさかでしょうね

あの人たちにされたことがトラウマとしてよみがえっているみたいね

それで倒れた」

雄二「・・・まさか明久がそこまで追い込まれていたなんて・・・」

優子「許さない明くんをこんな目に合わせるなんて

ほんとに許さない」

優奈「私も許さない

明をこんな目に合わせたあいつらを」

雄二「俺もゆるさねえ

明久は俺の友人だ！それに明久には助けてもらった！

今後は俺が助ける番だ！」

翔子「私も雄二と同じ

明久には雄二とのことで助けてもらってる

今度は私たちのばん」

康太「・・・俺もだ

明久には助けてもらってばっかだった

・・・だから明久を助ける」

愛子「僕もだよ

アツキーにはこんな目にあってほしくない

だからアツキーを救って見せる！」

それぞれが明久に助けてもらい

また、明久を守ろうと決意した！

ガラッ

雄二「ツ!?誰だ？」

恭二「おいおいそんなにかまえないでくれよ
坂本」

雄二「お前らは根本と小山か
何しに来た」

恭二「いや明久が倒れたと聞いてな
それで来たんだ」

友香「そうよ明久とは幼馴染だしね」

雄二「そうなのか？それはすまなかった」

恭二「大丈夫だ

しかし誰が明久をこんな目に？」

雄二「それは・・・」

雄二たち説明中・・・

友香「あの人たちのせいだとは

許せないわ私たちも明久を全力で守るわ」

恭二「そうだな

なんかあつたら言ってくれ！俺たちも全力で手助けする」

優子「ありがとう」

恭二「気にすることはない

俺たちはもう帰るな」

友香「またね」

優子「ええ」

雄二「さて俺たちもそろそろ帰らないとな

康太明久を家まで運ぶぞ！」

康太「・・・了解」

俺たちは明久を家に運んでそれぞれ家に帰った

明久のことは木下姉妹に任せた

優奈「お姉ちゃん着替えもってきたよ」

優子「ありがと優奈」

優奈「ううん

それより明はまだ目を覚まさないの？」

優子「ええ・・・ずっとうなされてるわ・・・」

優奈「・・・そう」

明久「うう・・・」

あれ・・・ここは？」

優子「明くん!」

優奈「明大丈夫!」

明久「二人とも何でここに・・・ってそういうことか

ごめんね心配かけて」

優子「ほんとよ!すぐく心配したんだから!」

優奈「もうこんなことは嫌だよ」

明久「うんほんとにごめんね?」

優子「今日は寝かさないからね?」

明久「マジですか・・・」

優奈「心配させた罰だよ?」

明久「・・・分かりました」

こうして一日が過ぎた

第六話 皆とのパーティー

「次の日の朝」

明久「ほわあゝ眠い・・・」

優子「おはよあきくん」

優奈「おはよ明」

明久「おはよ優子優奈」

優子「明くん今日は何するの？」

明久「うくんそうだね」

昨日のこともあるから雄二たちも呼んで家でパーティーでもどうかかな？」

優奈「いんじゃないかしら？ね？ねえさん」

優子「そうね」

そうと決まればさっそく翔子たちを呼びましょ」

明久「うん」

僕は料理の準備をするね」

優子「分かったわ」

くくくく

ピンポン

お？誰か来たみたいだね

明久「行つてくるね」

トタトタ

ガチャ

雄二「よう明久

みんなで来たぜ」

明久「みんな来たね

さあ入つてよ」

みんな「おじゃまします」

優子「翔子愛子おはよう」

翔子「優子おはよう」

愛子「おつはよ」

優奈「雄二康太おはよう」

雄二「ああ優奈おはよう」

康太「・・・おはよう」

明久「さあてはじめようか！」

雄二「それより明久体は大丈夫なのか？」

康太「・・・俺も聞きたかった」

翔子「私も」

愛子「僕も気になってたんだ」

明久「うんもう大丈夫だよ」

雄二「そうか」

ならよかった」

明久がそう言い安心した

けどあの二人がいつまた現れるかわかったもんじやない

だから俺たちは安心して明久が暮らせるようにサポートするつもりだ

雄二「よしそんじやま今日は食うかな

明久の料理だしな」

明久「遠慮せずにどんどん食べてよ！

たくさん作ったからね！」

雄二「そうか

なら遠慮はいらなそうだなよし食うぞ！」

翔子「雄二食い意地張りすぎ」

雄二「うぐう!？」

いいだろう!?!腹減ってたんだからよお」

康太「・・・さすが雄二」

優奈「そうね雄二は食うことになったらすごいからねw」

雄二「お前らまで!いいじゃねかよ

ちくしょう!」

皆「あはははははははは」

まったく今日は楽しいな」

いつもこんなだったらしいのにな」

・・・けどあの二人がいる限りそれはあり得ない

明久はこの状況はいつまで続けばいいと思っていた

しかし、あの二人がいる限りそれは訪れないとも考えていた

優子「明くん楽しんでる?」

優奈「明く楽しいね」

明久「うん!楽しんでるよ!

もつと楽しも!優子優奈!」ニッコリ

優子「ええ！／＼／＼（明くんいきなりその笑顔は反則だよお）」

優奈「うん！／＼／＼（明のあの笑顔はだめだよお）」

愛子「あはは楽しいね

ほんとに」

明久「あ、そうだ

康太ちよつと来てよ聞きたいことあるから」

康太「？・・・分かった」

明久「ごめんね

僕と康太は少し席を外すね」

く明久の部屋く

康太「・・・それで明久何のようだ？」

明久「康太は愛子さんのこと好きでしょ？」

康太「・・・なんでお前ですれを知っている」

明久「僕だけじゃないよ

皆気づいてるよおそらく愛子さんも」

康太「・・・それは本当なのか？明久」

明久「おそらくね

それで告白はするの？」

康太「・・・したいがタイミングが見つからない
いつも誰かというからな」

明久「だったらこれからやる？」

僕が愛子さんと呼んできてあげる」

康太「・・・大丈夫なのか？」

明久「平気だよ

それじゃ呼んでくるから後は頑張って康太」

康太「・・・感謝する明久」

明久「気にしないで」

ガラッ

明久「愛子さん康太が話したいことがあるって」

愛子「え？康太君が分かった？」

ありがとアツキー」

明久「(愛子さん康太からの返事待ってるよ)」

愛子「(え？それってつまり?)」

明久「(そゆことだよ)」

愛子「康太君来たよ

はなしってなにかな？」

康太「・・・愛子

俺はお前のことが好きだ

俺と付き合ってくれ」

愛子「え？ほんとに？

うんいいよ僕も康太君のことが好きですこれからよろしくね！」

康太「・・・ああ（明久には感謝しないとな）」

愛子「康太君戻ろうか？」

康太「・・・そうだな」

明久「おめでと二人とも」

康太「!?明久それにみんなも」

雄二「まあおめつとさん」

翔子「愛子おめでと」

優子「愛子よかつたわね」

優奈「二人ともおめでと」

愛子「あはは・・・なんか恥ずかしいね」

康太「・・・そうだな

しかし明久俺に勇気をくれてありがとう
助かった」

明久「僕は何もしてないよ康太が自分でやつとことだよ」

康太「・・・そうか

それでも機会を与えてくれたことはありがとう」

愛子「そうかくアツキーのおかげなんだね

ありがとうアツキー♪」

明久「どういたしました

さて二人のお祝いもかねてもう一度乾杯しますか!」

皆「おお!」

今日は夜遅くまでみんなと騒いだ

第七話 Eクラスとの試召戦争

某日

中林「私たちEクラスはFクラスに試召戦争を申し込みます」

雄二「ほおEクラス代表さん

なぜ俺たちなんだ？」

中林「それは私たちより下なのにAクラスに挑んだ实力を見たいからよ」

雄二「なぐるほど

聞かAクラスに挑んでいるのを知ってるならうちには姫路がいることも知ってるんだよな？

それでも受けると？Eクラス代表さん」

中林「ええ、そのつもりよ

姫路さんがいようとも構わない」

雄二「そうか

ならその提案受けよう

で、いつ開戦だ？」

中林「そうね

今日の午後からいいかしら？」

雄二「ああこちらは構わないさ」

中林「ならよろしくね」

雄二「ああ」

ふうそれにしても

まさかEクラスと戦争か

俺と康太は振り分け試験が控えてるからな

変な行動はできん

まあ、Aクラスに行く前の最後の仕事と思うか

さてこの馬鹿どもに作戦的なのを伝えとくか

雄二「聞いてくれお前ら

いまEクラスに戦争を申し込まれたのは知ってるな？

それで作戦なんだがまあ、お前らが姫路を守ってEクラス代表のところまで連れて行

け

以上」

康太「……あいつら素直に聞くのか？」

雄二「所詮あいつらはバカだ
みろ」

須川「おおおおおお

俺が姫路さんを守るぞお」

横溝「バカいえ俺が姫路さんを守るんだ」

近藤「いいや俺だ！」

と、予想通り

揉めあつていった

雄二「お前ら

んなことでいちいち揉めるな」

康太「・・・それより雄二

俺たちは勉強しておこう」

雄二「ああそうだな」

くくくく

午後

開戦時間

雄二「よしお前ら逝って来い」

康太「・・・よろしく」

Eクラスサイド

小林「皆今からFクラスと試召戦争するけど

相手は姫路さん以外は怖くないから姫路さんだけには気を付けてね

後、島田美波の数学土屋康太の保健体育も点数は高いからそこだけは気を付けてね」

Eクラス「了解だ代表！」

小林「それじゃ開戦よ」

Eクラス「おおおおお！」

~~~~~

須川「居たぞ！Eクラスだ」

三上「Fクラスよ皆行くわよ！」

Eクラス

三上 美子 89

古川 あゆみ 85

源 涼香 79

矢野 武雄 78

園村 俊也 80

大村 新太郎

8  
2

湯浅 弘文

7  
5

近藤 昇

7  
7

Fクラス

須川 亮

6  
0

横溝 浩二

5  
5

福村 幸平

5  
4

工藤 信也

5  
2

西村 雄一郎

5  
9

田中 明

4  
8

近藤 吉宗

5  
6

武藤 啓太

4  
5

須川 「行くぜ」

三上 「Fクラスに負けない」

横溝 「行くぞ」

ガキン！

双方の召喚獣が激突する

そして、姫路が投入される

雄二「それじゃ姫路行って来い」

姫路「分かりました」

島田「うちも行くわ」

姫路「姫路瑞樹がEクラス代表に試召戦争を申し込めます」

中林「近衛兵！」

島田「させない！サモン！」

中林「そんな・・・」

姫路「行きます

はあ！」

中林 0点

高橋先生「そこまで勝者Fクラス」

雄二「俺たちの勝ちのようだな

Eクラス代表さん」

中林「くやしいけどそのようね

Aクラスに挑むだけはあるわ

それで教室のことなんだけど明日でいいかしら？」

雄二「いいや設備の交換はしない」

中林「え？うちらにしたら助かるけどいいの？」

雄二「ああかまわない」

中林「ありがとう」

雄二「気にすんな」

## 第八話 明久と木下姉妹の休日

学校 放課後

明久「明日は休みだしなんかしたいな」

何しようかなく雄二たちは何か予定とかあるの？」

雄二「俺か？ そうだな俺は明後日再振り分け試験だからなそれに向けて勉強をし直すつもりだ」

翔子「私は雄二と一緒に勉強をする」

雄二「そうだな」

分からんところは頼む」

翔子「うん」

明久「そうなんだ」

康太は？」

康太「俺も雄二と同じだ」

愛子に教えて貰いながらやる」

愛子「任せてよ！ 康太君♪」

康太「ああ」

明久「そうか」

優子「私たちはなんか予定とかあるの？」

優子「私は何も予定はないわよ」

優奈は？」

優奈「私も何もないわよ」

明久「なら明日三人で会わない？」

優子「いいわね」

久しぶりに三人で遊びましょうか

ね？優奈もいいわよね？」

優奈「私も大丈夫だよ」

三人で楽しみましょう」

優子「そうねそうしましょう」

雄二「やれやれお前らは気楽にやれていいな」

康太「・・・まったくだ」

明久「気楽ではないよ」

それに雄二たちだって勉強しなくてもAクラス入りなんて余裕でしょ？



別の目的があるのかな？」

雄二「まあな」

そりやそうだ

俺の目的は翔子と一緒に居ただけだからな  
その口実に勉強することにしたんだ

康太「・・・ご名答」

・・・明久さすがに鋭い

俺は愛子と会いたいだけだ

勉強はただの口実だ

明久「それじゃ明日はお互い楽しもうか！」

雄二「そうだな」

康太「・・・ああ」

優子「そうね」

優奈「ええ」

翔子「うん」

愛子「そうだね♪」

明久「それじゃ今日ももう遅いし帰ろうか」

雄二「そうだな」

明久「じゃ〜ね

また月曜」

雄二「んじゃ」

康太「・・・それじゃ」

優子「またね」

優奈「月曜ね〜」

翔子「ばいばい」

愛子「バイバイ〜♪」

明久たちは帰った

しかしこの時良からぬことを考えてる人たちがいた・・・

〜

？ サイト

？ 「アキつたらうちらのこと放っておいてあんな奴らと付き合つて

絶対に許さない」

？ 「そうですよ！ 明久君は私たち以外の女子とは話してはダメなんです！」

? 「そうよね

オシオキが必要よね」

? 「そうですね

明日ついていきますか」

? 「そうね

そうしましょう」

? 「はいではまた明日」

? 「はいまた明日」

アキ覚悟しなさいよ

うちらが無視したこと後悔しなさい!

明久君待つていてくださいね?

絶対にオシオキです!

この二人は知らない

このことが後に大きな過ちになることを・・・

? サイトアウト

くくくく

明久「あ、そうだ

明日どこに集合するか優子たちに連絡しとこ  
ピロン

優子「ん？明くんからメール？」

優子へ

明日の事なんだけどこで集合にする？

優奈と決めてくれないかな？

決めたらメールお願い

明久より

優子「なるほどね

さっそく優奈のところに行きましようか」

こんこん

優子「優奈く今大丈夫？」

優奈「いいよ」

優子「失礼するわね」

優奈「どうしたの？ねえさんこんな時間に？」

優子「ごめんねくこんな時間に

要件なんだけ今明くんからメールが来てね

明日どこで集合するか優奈と決めてくれないかって」

優奈「明らしいわね

ん〜そうね明の家でいいんじゃないの？」

優子「そうねそれが一番いいわね

なら明くんに連絡しとくね」

優奈「うんお願いね」

優子「ええ

それじゃおやすみ」

優奈「おやすみねえさん」

優子「さて明くんにメールしないと

ピピピ・・・これでよしっと」

ピロン

明久「あ、優子からだ

なになに・・・」

明くんへ

明日は明くんの家に集合することにしたわ

いいかな？

返事待ってます

優子より

明久「なるほど僕の家で集合することにしたのね

うん全然問題はないよ

返信してつと・・・よしこれでいいかな」

ピロン

優子「明くんから返信が来た」

優子へ

了解だよ

じゃあ明日ね

おやすみ

明久より

優子「はくい

また明日ねつと」

次の日

ピンポーン

明久「はくい」

ガチャ

明久「いつらしやい二人とも」

優子「おはよう明くん」

優奈「おはよう明」

明久「うんおはよう

とりあえず上がりなよ」

優子「ええ

おじやましまーす」

優奈「おじやましまーす」

明久「どこに行こうかな？

どこに行きたい？」

優子「うくんそうね

あたしはゲームセンターに行ってみたいな」

優奈は？」

優奈「私はそうだな」

私もゲームセンターに行きたい！」

明久「ならデパートに行つて色んなところまわろうか

デパートならゲームセンターもあると思うし」

優子「そうね」

優奈「うん！」

明久「ならさっそく向かおうか！」

優子「ええ」

優奈「うん」

デパート

明久たちはお昼ごろにデパートについた

三人は昼ご飯をどうしようか相談をしていた

明久「今お昼だから何か食べようか？」

何がいいかな？」

優子「あたしはくそうね

スパゲティが食べたいな」

優奈は？」

優奈「私もねえさんと同じのがいい！」

明久「なら、お店に向かおうか」



優子「ええ」

優奈「うん」

お店の中にて

明久「さて着いたから注文しようかな

二人はスパゲティでいいんだよね？」

優子「ええ」

優奈「うん」

明久「おーけ

僕はカルボナーラにしようかな

あ、すいませーん」

店員「はい

ご注文をお伺いします」

明久「えつと、スパゲティを二つとカルボナーラを一つお願いします」

店員「はい

スパゲティが二つにカルボナーラが一つですね

少々お待ちください」

明久「分かりました」

数分後

店員「お待たせいたしました

スパゲティが二つにカルボナーラが一つですね」

明久「さつそくいただきますか

いただきます」

優子優奈「いただきます」

優子「ねえ明くんお互いのを少し分けない？」

優奈「明く私ともして」

明久「うんいいよ」

明久たちはお互いの料理を少しずつ分け合ったのであった

明久「それじゃ食ったから

ゲームセンター行こうか」

優子「そうね」

優奈「早くいこー」

ゲームセンター

明久「それじゃ何からやる？」

優子「あたしあれやってみたい」

明久「ん？あくあれか」

優子が見ていたほうを見たものは

某車ゲームである

明久「いいね」

ちようど三人でできそうだしやろうか」

優子「ええ」

優奈「うん」

結果

一位 明久

二位 優奈

三位 優子

明久「あはは

結構面白かったね」

優子「あたしは面白くないわよ

最下位なんて恥ずかしいだけよ」

優奈「仕方ないよ

ねえさんはあまりゲームセンターに来たことがないんだもの

それに私たちは雄二たちとも来たりすることがあったからねえさんよりも上手かったのよ」

優子「うう」

納得ができないくもう一回しようよ」

明久「うくんけど他にもあるからさ他の奴もやってからにしなさい？」

優子「うくん

それもそうね」

優奈「ならあたしはあれやりたい」

明久「あれ？」

優奈が指差したほうを見てみると

優子「あれはなに？優奈」

優奈「あれはプリクラだよ

写真を撮って自分たちでこれるんだよ」

優子「へえ面白そうね

ここに来た記念にやってみませんか？」

明久「そうだねやろうか」

数分後

優奈「面白かった〜」

優子「そうね

それにあきくんの面白い一面も見られたしね♪」

明久「あはは・・・それは忘れてほしいな〜」

優子優奈「無理！」

明久「ですよ〜

あ、僕ちよつとお手洗いに行ってくるね」

優子「分かったわ

この辺で待ってるわね」

優奈「いつてら〜」

明久「は〜い」

明久が二人と別れたところに

あの二人が寄ってくる・・・

？「アキがあいつらと離れたわよ」

？「オシオキをするなら今ですね」

？「そうね

行きましようか」

？「ええ」

明久を付けてる二人とは一体？

## 第九話 明久危機一発!?

明久「ふうおわった

早く二人のところに戻ろうつと」

明久はいま二人と別れてお手洗いに来ていた

戻ろうとしていた明久のところに

明久の嫌いな二人が姿を見せた

美波「アキこんなところで何をしているの？」

瑞樹「明久君なんで私たちのことを無視するんですか？」

明久「(げえ) なんで島田さんと姫路さんがこんなところにいるの？」

美波「それはあんたにオシオキをする為よ！」

瑞樹「明久君にオシオキをするからです！」

またオシオキされないといけないの？

なんで僕がそんな目に合わないといけないのさ

明久「僕は君たちにオシオキをされるようなことはしてないんだけど？」

美波「まだあんたはそんなことを言うのね」

瑞樹「分からない人にはオシオキです！」

明久「オシオキをされる筋合いはないね」

面倒だな

けどこのままだと二人が来るしな

ここは・・・学校まで行って西村先生たちに助けてもらおう

明久「悪いけど僕はそんなことされたくないから

じゃ〜ね」

明久を学校に向かうために走り出した

美波「あ！待ちなさいアキ！オシオキするんだから！」

瑞樹「逃がしませんよ明久君？」

二人も明久後を追って走り出した

一方明久を待っている二人は

優子「なんか明くん戻ってくるの遅くないかしら？」

優奈「そうね

何かあったのかな？」

？「お？優子に優奈じゃねえか

お前たちもここに来てたのか」



話しかけられたほうを見てみると

優子「あら？雄二君じゃないそれに翔子も

どうしたのよ今日は勉強するんじゃないやなかったのかしら？」

雄二「いやなにちよつとした息抜きさ

それに來てるのは俺たちだけじゃないぞ？」

優子「え？」

そういわれて雄二が指差したほうを見てみると

優子「やつほく♪

皆お揃いだね」

優子「あら愛子に康太君も來てたんだ」

愛子「うん♪

康太君が息抜きに行こうって」

康太「・・・それより明久がいないみたいだが？」

優子「そうなのよ

お手洗いに行つてくるって言われて時間が経つてるんだけど戻つてこないのよ」

雄二「なに？それは本当か？」

優子「ええ本当よ」

康太「・・・嫌な予感がする」

雄二「そうだな

おい優子、明久に電話してみてくれ」

優子「分かったわ」

プルルプルル

おかけになった電話番号は現在電波のつながらないところにあるか電源が入っていない  
ません

優子「でないわ・・・」

雄二「・・・まさかなあいつらじゃないだろうな」

優奈「あいつらって?」

翔子「島田に姫路

私たちさつきあの二人を見かけた」

雄二「誰かを探してる節も見えたしな

明久を見つけて何かしらしようとして明久もそれに気が付いて逃げてるんだろうな」

優子「・・・あの二人はまだ明くんを傷付けるつもりなのかしら」

優奈「そんなことさせない

明は必ず守る」

愛子「アツキーが行きそうなどころは？」

雄二「学校だろうな」

あそこなら鉄人たちがいる何かあればすぐに助けてくれるだろう」

翔子「けど心配」

雄二「そうだな」

皆で明久を助けに行くぞ」

康太「・・・鉄人に連絡しとく」

雄二「そうだな助かる康太！それならすぐに動いてくれるだろう」

康太「・・・ああ」

優子

明くん無事でいてね

優奈

明何事ありませんように

雄二

明久無事でいろよ！

康太

明久今いく

翔子

明久は傷つけさせない

愛子

アツキーを傷つけら許さない!

優子たちは急いで明久が向かったであろう文月学園に向かった

現在進行形で命の危機にある明久は

明久「いつまで追いかけてくるのさ!?!」

美波「それはあんたをオシオキするまでよ!」

瑞樹「明久君にオシオキするまでです!」

明久「だから!なんで僕がそんなことされないといけないのさ」

美波「行ってもわからない人には体に教えてあげる!」

瑞樹「明久君はここまでしてわからないんですか?」

いや分からないかと聞かれてもいつも僕に出して理不尽に暴力してくる二人のことをだれが分かるのだと言うのだろうか?

明久がそんなことを考えていると

しめた!学校についた

ん?誰か今門のところにいるな

あれは・・・

明久「西村先生！」

助かった

こうもすぐに西村先生がいてくれるなんて

鉄人「吉井！こつちに来い！」

話は聞いている！」

明久「は、はい！」

美波「あれは西村先生!？」

瑞樹「明久君卑怯ですよ！」

鉄人「貴様らは何を言ってるのだ？」

それにきさまらはAクラスとの戦争の時に吉井に近づくなと言われていたのではな  
いか？」

美波「あんなの受けるわけじゃないじゃないですか！」

瑞樹「なんであれを受け入れないといけないんですか！」

鉄人「それは貴様らが吉井を傷つけるからだろうが！」

美波「そんなことしてません！」

瑞樹「私たちは明久君にオシオキをしただけです！」

鉄人「ほうなら吉井がオシオキを受けなければならぬほどのことしたの教えてもらおうか」

美波「そ、それはアキがうちのことを放っておいて他の女子と仲良くしてるからです！それにカンニングしてAクラスに行ったからです！」

瑞樹「そうですね！明久君は私たち以外の女子と仲良くしたらいけないんです！」

明久君がAクラスに行くなんてカンニングしたに違いありません！」

明久「なんで二人にそんなこと言われぬといけぬのさ！」

それに僕がカンニングした証拠でもあるの！」

鉄人「貴様らの見当違いも甚だしいな」

美波瑞樹「な!？」

鉄人「吉井が貴様ら以外の女子と話してはいけない？仲良くしてはいけない？なんで貴様らがそんなことを決めれるのだ！」

それに吉井がカンニングをしただと？戦争の時にも言ったがテストの時に監督をしていたのは私と高橋女史だぞ？

それなのにどうやってカンニングをするといふのだ？

しかもカンニングをしていれば嫌でも点数は下がるぞ？

そんなことはできないと分かるはずだがな？」

美波瑞樹「そ、それは」

鉄人「ようし貴様らには今からキツイ補修をしてやる」

美波「そんなの横暴です！」

瑞樹「なんでなんですか！」

明久「嫌なら補修を受けれるようにしてあげるよ」

美波瑞樹「え？」

明久「西村先生召喚許可を」

鉄人「承認する」

美波「くつアキのくせに生意気よ

サモン！」

瑞樹「明久君オシオキです！

サモン！」

明久「サモン！」

明久 13000

V S

島田 1000

姫路 5000

美波「何よその点数!」

瑞樹「勝てるわけじゃないじゃないですか!」

明久「なら勝たせてもらうね」

腕輪発動【剣舞(ブレイドダンス)】!

美波瑞樹「きゃああああああ」

島田 DEAD

姫路 DEAD

鉄人「終わったな」

戦死者は補修く」

美波「アキ覚えてなさいよ!」

瑞樹「明久君絶対にオシオキしますからね?」

島田と姫路は鉄人に連れて行かれた

雄二「明久あ!」

明久「ん?雄二それにみんなも」

優子「明くん!」

優奈「明!」

明久「つておわあ」



明久は二人に抱き着かれて倒れた

優子「もう心配させないでよね」

優奈「明のぼかあ心配したんだからね」

明久「ごめんね心配かけて」

康太「・・・島田たちは？」

明久「あの二人なら西村先生に連れて行かれたよ

つてもしかして西村先生が校門のところに行ったのつて」

康太「・・・俺が連絡を入れておいた

明久が島田たちに追われてこっちに向かっているかもしれないとな」

明久「そうだったんだ

ありがと康太」

康太「・・・お安い御用」

愛子「それにしてもあの二人はなんでアツキーにこんなことばかりするのかな」

翔子「許せない明久はなにも悪くない」

雄二「明久！何かあったら俺たちに言えよ！ぜったいに助けてやるからな！」

明久「ありがと皆」

この後はみんなで明久の家に行つて楽しみましたとき

優子と優奈は泊まりです

# 第十話 再度振り分け試験！ 雄二と康太Aクラス入りなるか!?

明久たちが解散した後の文月学園にて

西村 「学園長先生全員集まりました」

学園長 「西村先生ありがとうございます」

皆よく集まってくれたさね」

高橋 「学園長

どうして先生方を招集したのですか？」

学園長 「それを今から話すさね」

高橋 「分かりました」

学園長 「それで今回集まってもらったのは、Fクラスの島田姫路が行った行動についてさね」

高橋 「Fクラスの島田と姫路ですか

二人が何をしたんですか？」

学園長 「あの二人がAクラスの吉井明久に殺人まがいのことをしたさね」

高橋「それは本当なんですか?」

学園長「ああほんとさね

実際の西村先生が今日、土屋の連絡でこっちに向かった吉井を助けてるさね」

高橋「西村先生本当ですか?」

西村「本当ですよ

実際に吉井は今日、島田姫路に追い回されて学校にまで逃げてきていました

それを土屋から聞いたので助けました」

高橋「本当のようですね

しかし、あの二人がそんなことをするとは」

学園長「まったくさね

それであの二人の処罰を決めようと思うさね」

西村「学園長、あの二人にはどんな処罰を下すのですか?」

学園長「それは……さね」

西村「なるほど

了解しました」

学園長「これは、明日二人を呼んで話すさね」

果たして、学園長が下した処罰とは?

次の日

今日は再度振り分け試験の日だ

雄二と康太Aクラスに来れるといいな

まああの二人ならよほどのことがなければ大丈夫か！

Fクラス教室

西村「え、今からFクラスだけ特例で再度振り分け試験を行う

なお、島田と姫路は今回の振り分け試験は受けることはできません」

島田「なんでですか!?!」

姫路「そんなの横暴です!」

西村「とにかくこれは決定事項だ!

二人は学園長がお呼びなのですぐに学園長室に向かえ」

島田「学園長に抗議しましょう!」

姫路「はい!」

西村「他のものは今から振り分け試験だ!」

あの二人は試験を受けられないのか

これで明久への負担も少なくなればいいんだがな

まあいい

今は試験に集中だ

絶対に受かって見せる

学園長室

島田姫路「失礼します」

学園長「よく来たさね

くそじやりども」

島田「学園長！なんでもうちらは試験を受けられないんですか！」

姫路「そんなのおかしいですよ！」

学園長「あんたらは自分たちがやったことの重大さを何も分かってないようだね」

島田「事の重大さ」

姫路「いったい何のことですか？」

学園長「あんたらが昨日吉井にやろうとしたことさね

あれは西村先生がいなかったら危ない所だったさね」

島田「あれはアキが悪いんです！」

アキがうちらを放っておくのがいけないんです！」

姫路「そうです！私たちは何も悪くありません！」

学園長「あんたらはほんとうにわかってないようさね

未遂ですんでいたから処罰を軽くしようと思っただけどそんな必要はないようさね

西村先生」

西村「はい

お前らに処罰を言い渡す

島田姫路お前らを観察処分者に認定する

フィードバックは普段なら3程度だがお前らは反省する気がないようだからな7に設定にしている」

島田「そんなの横暴です！」

姫路「そうです！なんで私たちが観察処分者なんですか！」

学園長「あんたらの言い分は聞いていないさね」

西村「そうだこれは決定事項だ

それと今日から私たち教師の手伝いをしてもらう

放課後は残しておくようにいいな」

島田姫路「そんなの認めません！」

学園長「決定だと言ってるだろ！」

早く教室に戻りな」

そう言われ二人は渋々学園長室を後にした

こうも言われた二人はそれでも明久に暴力をしようと考えていた

後日

振り分け試験結果当日

明久「今日いよいよ再度振り分け試験の結果発表の日だね」

雄二「そうだな

まあ俺と康太以外はそのままだろ」

明久「そうだね」

康太「・・・ああ」

そして校門のところまで

明久「おはようございます西村先生」

雄二「おはよう鉄人」

康太「・・・おはよう鉄人」

西村「ああおはよう

それと坂本と土屋は西村先生と呼ぶように」



雄二「へーい」

康太「・・・分かった」

西村「まあいい」

これが再度振り分け試験の結果だ」

坂本 雄二 Aクラス

土屋 康太 Aクラス

当然の結果だった